

## 秋の夜長に月見れば

今年は、10月4日が中秋の名月で、お月見の日です。この日の月は十五夜とも呼ばれ、月を鑑賞する行事が行われます。三日月、半月、満月…月は毎日形が変わります。人々は、月を鑑賞し、風情のある名前を付け、暦の基準にしてきました。

また、月の黒い模様を見ると、まるでうさぎが餅つきをしているように見えます。他にも、かにがはさみを振り上げて

いるように見えたり、女の人の横顔に見えたりします。そして実は、月の模様はいつでも同じなのです。つまり月は、いつも地球に同じ面を向けていることとなります。月の裏側は、探査機が飛んで行って写真を撮るまで、分かりませんでした。

月を望遠鏡でのぞいてみると、さらに面白い姿を見ることができます。丸いお椀のような形をしたでこぼこが、たくさん見えるのです。これはクレーターと呼ばれ、昔、月に隕石がぶつかった跡です。一方、黒い模様の部分は平らになっており、月の海と呼ばれています。しかし実際には水があるわけではなく、火山が噴火して溶岩が流れた跡です。流れた溶岩がクレーターなどでこぼこした地形を埋めて、表面を平らにしたのです。月の不思議な地形は、見ていて飽きません。秋の夜長に、月をじっくり眺めてみましょう。

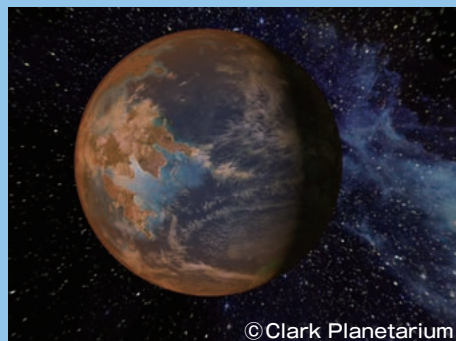


企画・制作：江越 航（学芸員）

## さがせ！第2の地球

私たち人類は、地球以外にも生命が住んでいる星はあるのか、探求を続けてきました。太陽以外の星のまわりを回る惑星は、長いあいだ見つかっていませんでした。しかし、1995年に初めて太陽系以外の惑星が発見されて以来、次々と太陽系の外に惑星が発見されています。

では、それらの惑星の中には、生命が生命が住める地球のような星はあるのでしょうか？調べてみると、宇



© Clark Planetarium

昼と夜が固定された惑星